

平成28年度(2016.4-2017.3)

血液事業概要

埼玉県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ	1ページ
埼玉県赤十字血液センターの沿革	2ページ
組織機構図と職員数	7ページ
血液センターの業務	8ページ
施設の案内	12ページ
献血ルームの案内	14ページ
広報・キャンペーン活動	16ページ
研修・見学	18ページ
統計資料	20ページ

所長あいさつ



平成 28 年度における埼玉県の血液事業は延 22.5 万人の方に御協力をいただき、献血者の皆様をはじめ埼玉県、献血推進協議会、献血推進団体の皆様、医療機関並びに関係各位のご理解とご協力の賜物と、厚く御礼を申し上げます。

しかし、献血の減少傾向と供給の増加傾向により、平成 28 年度は残念なことに赤血球製剤が県内の献血で県内の需要を賄うことができず、関東甲信越ブロックを中心に他都県との調整により輸血用血液製剤を確保したのが実状です。

血液センターでは、献血にご協力いただく方の減少傾向に少しでも歯止めをかけたいと平成 29 年 2 月以降、献血ルーム受付時間の繰り上げなど一層の強化策に取り組みました。また、川越献血ルームでは平成 28 年 12 月から月・火曜日について平日に昼時間帯の受付継続を試行し、平成 28 年 6 月からは平日全てに拡大いたしました。

若年層の献血推進につきましては、埼玉県の協力のもとに高等学校で献血を実施する一方、小・中・高校などにお伺いして血液の働きや献血の必要性を説明する「出前講座」や「献血セミナー」を開催するなど、次世代を担う方々に献血に接して頂く機会を創設してまいりました。

また、思想普及・広報の面では従来のホームページに加えて SNS を導入・活用して若い世代への情報提供に力を入れており、平成 29 年 5 月からは、県のツイッターアカウントを借用して、より拡散性の高い広報に取り組んでおります。

平成 20 年に運用を開始いたしました携帯メールクラブは平成 28 年末現在の会員数が 62,551 人となっておりますが、本格的な運用を展開するにはまだまだ十分な会員数とは言えません。今後さらに会員募集を強化して、需要に応じた情報の提供に努めてゆくことにいたしております。

今後とも、血液センターの責務である安全な血液製剤の安定供給の実現に向け努めてゆく所存です。引続き、皆様のご協力をいただきますよう、お願いを申し上げます。

平成 29 年 7 月

埼玉県赤十字血液センター

所長 芝池伸彰

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●1964年（昭和39年）

- 8月 「献血推進について」の閣議決定
- 11月 日赤本社から日赤埼玉県支部に移動採血車（愛の献血車）1台配備
- 12月 埼玉県献血推進協議会を設置

●1965年（昭和40年）

- 2月 埼玉県赤十字血液センターを大宮赤十字病院の一室に開設（業務開始）
- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設を大宮赤十字病院の敷地内に新築落成



- 9月 「第1回愛の献血助け合い運動」を実施
- 11月 県内の保健所地区すべてに献血推進協議会を設置

●1967年（昭和42年）

- 3月 県内の市町村すべてに献血担当窓口を設置

●1968年（昭和43年）

- 4月 献血相談員制度（1971年4月に献血指導員に改称）を発足
- 8月 不規則抗体スクリーニング検査を開始
- 10月 県内最初の市町村献血組織（川越市献血会）を設置

●1969年（昭和44年）

- 8月 県内での献血者10万人を達成
- 10月 「第1回埼玉県・愛の血液助け合いの集い」を埼玉会館（浦和市）で開催
- 11月 県費補助金により肝機能・血液型検査サービスを開始（1977年3月まで実施）

●1970年（昭和45年）

- 4月 浦和出張所、大宮出張所、東松山出張所、深谷出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1971年（昭和46年）

- 3月 Au（HBs）抗原検査を開始

- 11月 川口出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1973年（昭和48年）

- 8月 血液成分製剤の製造を開始

●1974年（昭和49年）

- 4月 国庫補助金により血液代金自己負担金給付制度を発足（1986年4月廃止）

●1975年（昭和50年）

- 9月 血液製剤用に血液型別カラーラベルの使用を開始

●1976年（昭和51年）

- 8月 Rhマイナス型の献血者登録を開始
- 11月 埼玉県赤十字血液センター施設を県立がんセンター敷地内（伊奈町）に新築移転、旧施設は大宮第二出張所に改称（1983年12月に廃止）

●1977年（昭和52年）

- 4月 異常値を示した献血者に対する生化学検査結果の通知を開始
- 6月 献血者登録制度を開始
- 10月 HBs抗原検出用試薬の製造を開始

●1978年（昭和53年）

- 4月 HBs抗原検出用試薬の全血液センターへの供給を開始

●1979年（昭和54年）

- 3月 県内での献血者100万人を達成



- 4月 HLA抗体スクリーニング検査を試験的に開始
- 7月 研究部（HBs抗原検出用試薬の製造供給・開発研究）を設置
- 9月 岩槻市役所で県内最初の出張（オープン）採血を実施
- 10月 バッグによる採血に全面切替（ビンでの採血を中止）

●1980年（昭和55年）

- 1月 献血手帳から優先還元に関する記載事項を削除

●1981年（昭和56年）

- 3月 第1回学術研修会を埼玉労働会館（浦和市）で開催
11月 県内での献血者150万人を達成

●1982年（昭和57年）

- 4月 献血者全員に対する生化学検査結果の通知を開始、献血手帳から供給記録欄を削除

●1983年（昭和58年）

- 4月 HLA抗体スクリーニング・抗体同定検査をルーチンとして実施、HLAタイピングトレイの製造・供給を開始（熊谷赤十字血液センターに引継ぎ、1997年9月に中止）
7月 県内2つめの血液センターとして、熊谷市に熊谷赤十字血液センターを開設（新築）
10月 県内での献血者200万人を達成

●1984年（昭和59年）

- 3月 県内最初の献血ルームとして、大宮駅近くに大宮西口献血ルームを開設（2001年7月に移転）
4月 大宮分室施設を増改築し研究部を移転
11月 米国赤十字血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1985年（昭和60年）

- 11月 英国の血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1986年（昭和61年）

- 4月 400mL、成分献血の実施
5月 所沢西武アパート内に所沢西武献血ルームを開設（2001年4月に移転改称）
5月 熊谷赤十字血液センターで抗ヒトグロブリン（クームス血清）の製造供給を開始（2002年3月に中止）
7月 AIDS抗体検査（ELISA法）を開始
9月 血球計数検査を開始
県内での献血者300万人を達成
11月 ATL抗体検査を開始

●1987年（昭和62年）

- 7月 第23回献血運動推進全国大会を埼玉県

（浦和市文化センター）で開催（ご臨席の皇太子殿下・同妃殿下が熊谷赤十字血液センターを行啓）



●1988年（昭和63年）

- 4月 越谷サンシティ内に越谷サンシティ献血ルームを開設（2008年9月 移転閉所）

●1989年（平成元年）

- 11月 HBc抗体検査（HI法）・HCV抗体検査（ELISA法）を開始

●1990年（平成2年）

- 7月 HLA適合血小板製剤の供給を開始

●1991年（平成3年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（1993年5月迄）
6月 CMV抗体検査を開始
11月 熊谷成分献血友の会が発足

●1992年（平成4年）

- 1月 埼玉県赤十字血液センターと熊谷赤十字血液センターに骨髓データセンターを併設
5月 大宮駅東口に大宮東口献血ルームを開設、クレアモール商店街（川越市）に川越献血ルームを開設

●1993年（平成5年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（同年9月迄）
7月 日高市に第三血液センターの竣工
10月 第三血液センターを埼玉県赤十字血液センターとし、旧・埼玉県赤十字血液センター（伊奈町）を埼玉県伊奈赤十字血液センターに、熊谷赤十字血液センターを埼玉県熊谷赤十字血液センターに名称を変更（埼玉県赤十字血液センターを中心とする3血液センターによる県内一体運営体制がスタート）

●1994年（平成6年）

- 3月 HIV-2抗体検査を開始
- 4月 輸血後GVHD防止のための技術（血液製剤への放射線照射）協力を開始
- 11月 3血液センターのオンラインシステム（血液事業統一システム）が稼動

●1995年（平成7年）

- 3月 医療機関に対する血液製剤直配体制に移行（供給業務委託の中止）

●1996年（平成8年）

- 10月 鴻巣自動車運転免許試験場敷地内に鴻巣献血ルームを開設（2014年4月 改築）

●1997年（平成9年）

- 10月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける検査業務を埼玉県赤十字血液センターに集約化

●1998年（平成10年）

- 6月 放射線照射輸血用血液製剤の供給を開始

●1999年（平成11年）

- 4月 献血者の採血基準を改正（献血年齢を69歳に引上）
- 5月 献血者データの全国オンラインシステムを稼動
- 10月 核酸増幅（NAT）検査を導入
プールサイズを500検体でスタート

●2000年（平成12年）

- 1月 希望者に対するHTLV-1抗体検査結果（異常の場合）の通知を開始
- 2月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを50検体に変更
- 4月 川越献血ルームを移転し、川越献血ルームポケットとして新装開所（2011年10月 移転閉所）
- 6月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の一部（血小板製剤等の製造）を埼玉県赤十字血液センターに集約化
- 7月 第1回彩の国血液フォーラムを開催（以降毎年開催）
- 8月 熊谷駅施設内に熊谷駅献血ルームを開設（これを機に、埼玉県熊谷赤十字血液センター施設での採血を中止）

●2001年（平成13年）

- 4月 所沢献血ルームを移転し新装開所（2009

年12月 移転閉所）

- 7月 大宮東口献血ルームと大宮西口献血ルームを統合し、大宮駅献血ルームとして大宮駅構内に新装開所（これを機に、埼玉県伊奈赤十字血液センター施設での採血を中止）
- 8月 埼玉県伊奈赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化

●2002年（平成14年）

- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設の敷地内に同センター新館を建設
- 7月 埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化（県内における検査・製造業務の集約化が完了）
同時に、採血業務、渉外業務、管理業務等を含む血液センター業務の県内一体運営体制を確立
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が制定（全面施行は1年以内）

●2003年（平成15年）

- 1月 研究部を埼玉県熊谷赤十字血液センター施設内に移転（大宮分室を廃止）
- 6月 越谷サンシティ献血ルームを新装開所（2008年9月 移転閉所）
- 7月 安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律が全面施行
血液製剤の表示事項（「献血」・「非献血」の採血方法の追加等）・添付文書等の改定など
（改正薬事法の施行）

●2004年（平成16年）

- 1月 新鮮凍結血漿の2ヶ月間（60日間）の貯留保管開始
- 3月 携帯メールクラブ受付開始
- 5月 第2次血液事業統一システムへ電算システムの変更
- 6月 新鮮凍結血漿の貯留保管棟を建設



埼玉県赤十字血液センターの沿革

- 8月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを20検体に変更
- 10月 献血者本人確認の開始
保存前に白血球除去した血小板製剤の供給を開始
- 12月 新鮮凍結血漿の4か月間（120日間）の貯留保管を開始
- 2005年（平成17年）
 - 3月 新鮮凍結血漿の5か月間（150日間）の貯留保管を開始
 - 6月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限措置を開始
 - 7月 新鮮凍結血漿の6か月間（180日間）の貯留保管を開始
- 2006年（平成18年）
 - 3月 携帯メールクラブの全国化
タッチパネル方式による問診回答システムの導入
保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の製造を開始
 - 4月 埼玉県伊奈赤十字血液センターを伊奈出張所に、埼玉県熊谷赤十字血液センターを熊谷出張所に名称を変更
 - 5月 埼玉センターでの血液製剤の県内一括受注開始
川口駅東口に川口駅献血ルームを開設
 - 7月 長野県赤十字血液センターの検査業務を開始
 - 9月 保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の供給を開始
 - 10月 群馬県赤十字血液センターの検査業務を開始
これまでの献血手帳から本人確認が簡便で携帯性に優れる「献血カード」を全国で導入
- 2007年（平成19年）
 - 1月 保存前に白血球除去した赤血球製剤の供給を開始
3月末にかけて段階的に初流血除去を開始
 - 4月 栃木県赤十字血液センターの検査業務を開始
 - 6月 web会議開始
 - 7月 大宮駅献血ルームを移転し新装開所（2014年7月 閉所）
 - 11月 血小板製剤の有効期限の変更（採血後4日間）
- 2008年（平成20年）
 - 2月 感染症関連検査を化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）で開始
 - 4月 新潟県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 2009年（平成21年）
 - 3月 糖尿病関連検査グリコアルブミン検査を開始
 - 12月 所沢献血ルームを移転し、所沢プロペ通り献血ルームとして新装開所
- 2010年（平成22年）
 - 1月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限の緩和
 - 10月 大宮駅西口に大宮献血ルーム ウエストを開設
 - 12月 200mL全血献血者の方にも、血球計数検査結果の通知を開始
- 2011年（平成23年）
 - 4月 献血の採血基準を一部改正（男性に限り、400mL全血献血が可能な方の年齢の下限を17歳に引き下げ、血小板成分献血が可能な方の年齢の上限を69歳に引き上げた）
 - 10月 第35回血液事業学会総会を埼玉県（埼玉会館）で開催（10/20～10/22）



- 9月 長野県赤十字血液センターの製剤業務を開始
越谷献血ルームを移転し、越谷レイクタウン献血ルームとして新装開所
- 10月 研究部を廃止



埼玉県赤十字血液センターの沿革

10月 川越献血ルームを移転し、川越クリアモー
ル献血ルームとして新装開所

●2012年（平成24年）

- 2月 東松山市に埼玉県東松山赤十字血液セン
ター（製造棟）を開設し、検査・製造業務を
移転
茨城県赤十字血液センターの検査・製剤業
務を開始
- 3月 群馬県赤十字血液センター、新潟県赤十字
血液センター、栃木県赤十字血液センター
の製剤業務を開始
- 4月 血液事業の広域運営体制の開始
組織改正に伴い、埼玉県東松山赤十字血液
センターが関東甲信越ブロック血液セン
ター埼玉製造所となり、北関東・信越6県
の検査及び製剤業務を実施
伊奈出張所が事業所となり、埼玉県赤十字
血液センターは3部、1事業所、9出張所
体制に変更



- 8月 献血血液の検査基準の変更(輸血後のB型肝炎
対策として、「HBc抗体1.0以上12.0未満
かつHBs抗体200mIU/mL未満」の献血者
に対する献血制限の実施)
- 10月 シャーガス病に係る安全対策の開始

●2013年（平成25年）

- 1月 「献血の同意説明書」の導入
「献血の同意説明書」により献血に伴う副
作用に関する事項を含む4項目について同
意事項を説明し、同意いただいた方の献血
受入れ開始
- 11月 鴻巣献血ルーム改築のため、一時閉所
- 12月 献血会場にて、検査目的の献血のお断りと
問診事項への正しい回答で献血していただ
くため、「責任ある献血」の注意表示を開始

●2014年（平成26年）

- 1月 検査目的の献血者への注意喚起などを収
載した「お願い！」パンフレットの改訂
- 4月 鴻巣献血ルームを改築し、開所
- 6月 献血者データの全国オンラインシステム
を更新(血液事業情報システム)
- 7月 大宮駅献血ルームを閉所
- 8月 大宮献血ルームウエストを、面積・ベッド
数ともに増加して改装
1検体ごとのNAT（個別NAT）スク
リーニングを開始
- 9月 血小板の安定供給を目的とした分割採血
を開始

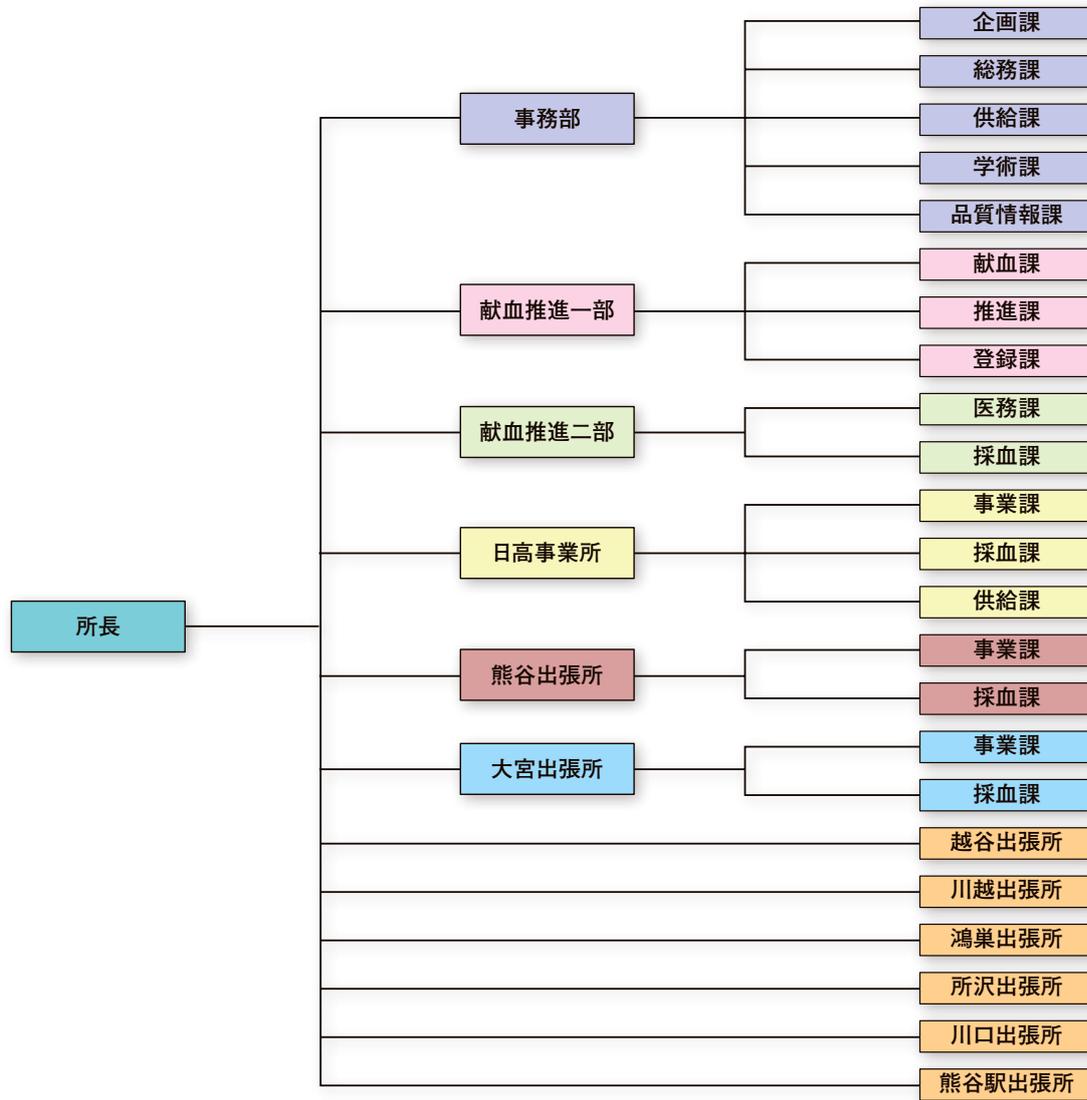
●2015年（平成27年）

- 3月 伊奈事業所を閉所
分画製剤の販売を終了



- 4月 さいたま市見沼区に本センターとしての
新社屋を竣工し、埼玉県赤十字血液セン
ターの本部機能を移転
旧埼玉センター（本センター）は日高事業
所と改称
- 11月 越谷レイクタウン献血ルームを改装

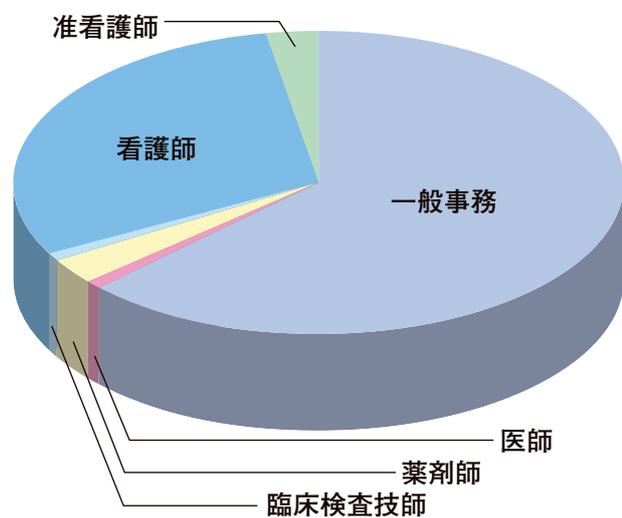
組織機構図と職員数



職員数

職 種	人数(人)	構成比
一 般 事 務	141	62.9%
医 師	2	0.9%
薬 剤 師	6	2.7%
臨床検査技師	2	0.9%
看 護 師	67	29.9%
准 看 護 師	6	2.7%
合 計	224	100.0%

職種別構成比



平成29年3月現在

血液センターの業務

● 献血者の確保

埼玉県赤十字血液センターでは、県・市町村・献血推進協議会・献血推進団体と協力し、献血計画を作成したうえで、県内の事業所や学校、また地域における献血参加を呼び掛け、日々献血される方の受け入れを行っています。

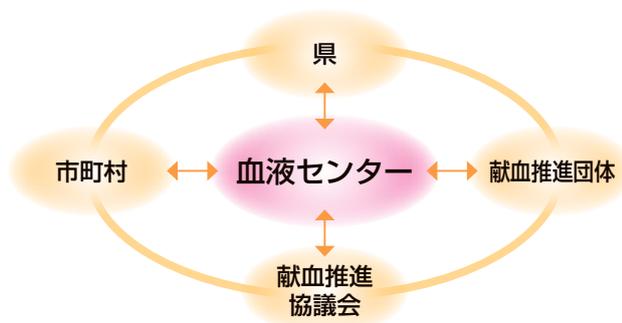
また、医療機関からの要請に対して、安定した血液の供給体制を確立するため、若年層に対する献血啓発や献血協賛企業の推進を図り、より安全な血液を確保するための各種キャンペーンを行っています。その他、Rh(-)の血液型やHLA適合血小板など、その患者さんにあった血液を確保する必要がある場合には、電話や手紙、Eメールでの献血協力要請を行っています。特に献血の依頼を迅速に行えるよう携帯電話のメールを活用した「携帯メールクラブ」を設立し、そのクラブへの登録も推進しています。



献血ルーム受付



移動採血



携帯メールクラブ

「携帯メールクラブ」とは、埼玉県赤十字血液センターにおける“複数回献血クラブ”の愛称です。

携帯メールクラブは安全性の高い輸血用血液を安定的に患者さんへお届けする事を目的として、年に複数回、県内の献血会場での400mL献血または成分献血にご協力いただける方を募集しています。

会員の皆様には血液センターから状況に合わせた献血依頼のメールを送信し、依頼内容に合った献血をお願いしています。また、メール会員限定のイベントも開催しており、会員の皆様からご好評いただいています。

● メールでのお知らせの一例

- ・成分献血を安定的に確保するための定期的な配信
- ・献血者が減少し、血液が不足した時の献血依頼
- ・特定の血液型が非常に不足した時の献血依頼
- ・血液在庫状況のお知らせ
- ・イベント・キャンペーン開催のお知らせ

● 携帯メールクラブの特典

- ・平成17年以降の検査成績等を見ることができます。
また、最新5回分はグラフ表示されます。
- ・携帯メールクラブポイントが貯まります。
(埼玉・東京・千葉・神奈川共通)
20ポイント貯まると次回の献血時に記念品と交換ができます。
- ・会員様対象に開催する講習会(ヨガ教室・料理教室等)に参加できます。
- ・成分献血の予約ができます。



こちらから登録いただけます
空メールを送信してください。

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーターロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。

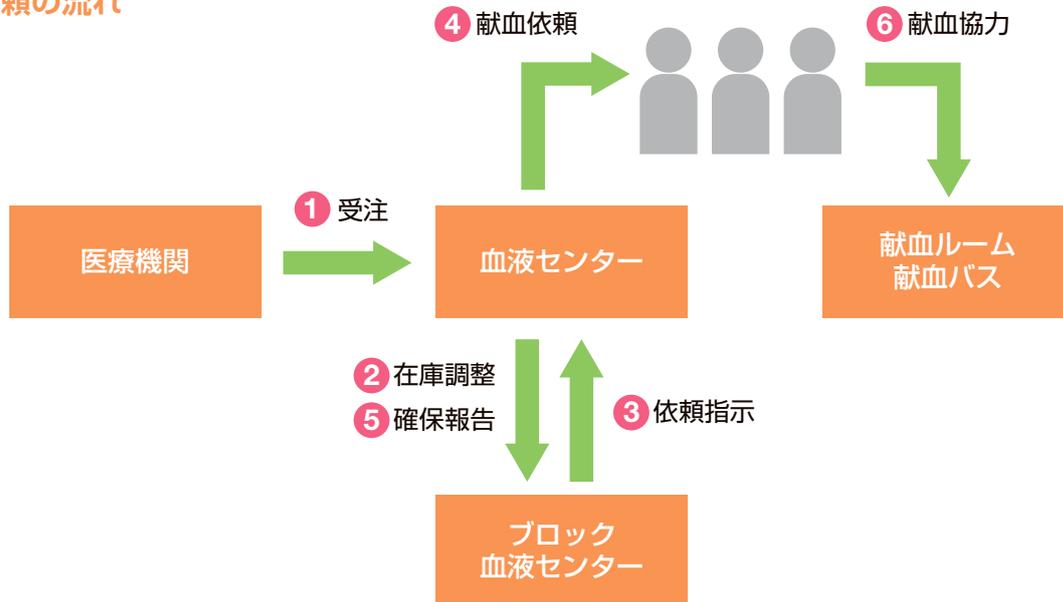


特殊な血液の献血依頼要請

埼玉県赤十字血液センターでは、皆様に献血の申し込みをいただく際に、献血依頼要請の可否について確認しています。この項目にご同意いただいた方に対して、下記のような場合に電話で献血のお願いをしています。

- (1) 輸血用血液の在庫が不足した場合
- (2) Rh(一)の血液の在庫が必要になった場合
- (3) HLA適合血小板が必要になった場合
- (4) まれな血液が必要になった場合

●献血依頼の流れ



平成24年度から血液製剤のさらなる「安全性の向上」と「安定供給の確保」および効率的な事業運営を行うため、これまでの都道府県単位の事業運営体制を見直し、各都道府県の血液センター単位によるものから、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。このブロック化により血液在庫も広域で管理され、特殊血の在庫状況も短時間で把握できるようになりました。また、在庫がない場合にもブロックセンターが複数の血液センターに依頼要請を出すことにより、医療機関に対してより迅速な対応が可能となりました。

●採 血

埼玉県赤十字血液センターでは、県内7か所に献血ルームを開設しています。また、県内1か所の血液センターと2か所の事業所及び出張所に配置した移動採血車を職場や地域の献血会場へ配車し、来場された献血者から採血しています。献血には下記のような種類がありますが、それぞれ採血するときには、献血者及び輸血を受ける患者さんの安全確保のために、血色素量・献血歴等の確認のほか、検診医師による血液検査ではチェックできない項目等の問診を行っています。



問 診



採血室



●供 給

埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉センター・日高事業所・熊谷出張所の3供給施設において、各血液製剤を定められた条件下で適切に保管・管理しています。また、県内の3供給施設に血液運搬車を配備し、県内の医療機関に血液製剤を供給しています。医療機関からの発注は、埼玉センターで一括受注され、3供給施設から県内の約500医療機関に必要な血液製剤を24時間体制で供給しています。さらに、全国を7つのブロックに分け、広域的な血液製剤の需給管理体制により、輸血を必要としている患者さんのため、迅速に対応しています。



血液運搬車



供給出庫作業

●学 術

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を医療関係者に提供・収集・伝達する役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術課がその業務を行っています。いわば医療のパートナーとして訪問活動しており、輸血関連情報や適正使用に関する情報等の提供、輸血副作用への対応、問い合わせの対応、埼玉輸血セミナーや勉強会の講師などを主な業務としています。特に輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置付けられています。

また、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、平成21年7月には県内医療機関で組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」が設置されました。平成29年2月11日（土）には、大宮ソニックシティにて「第8回埼玉輸血フォーラム」を開催し、同委員会での活動の成果を報告しました。



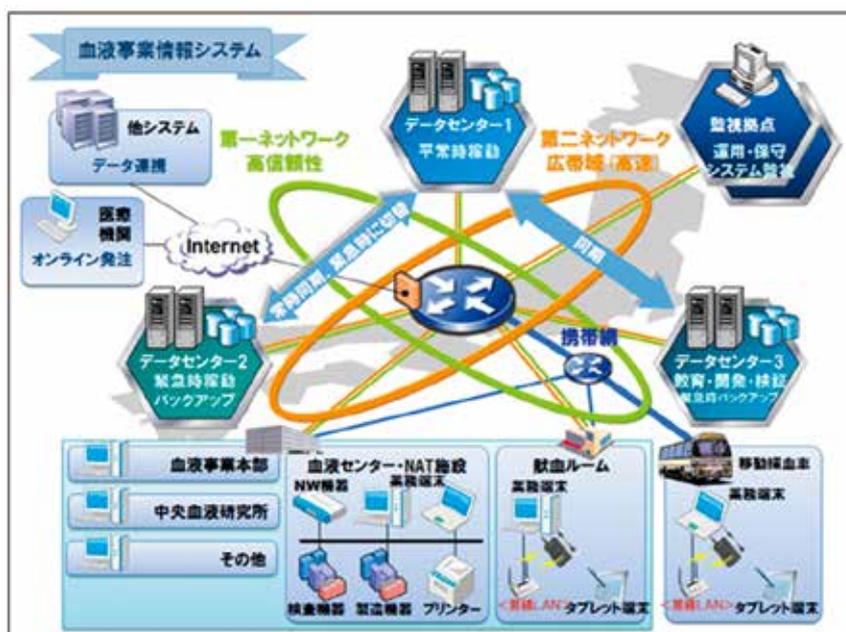
情報媒体の一例



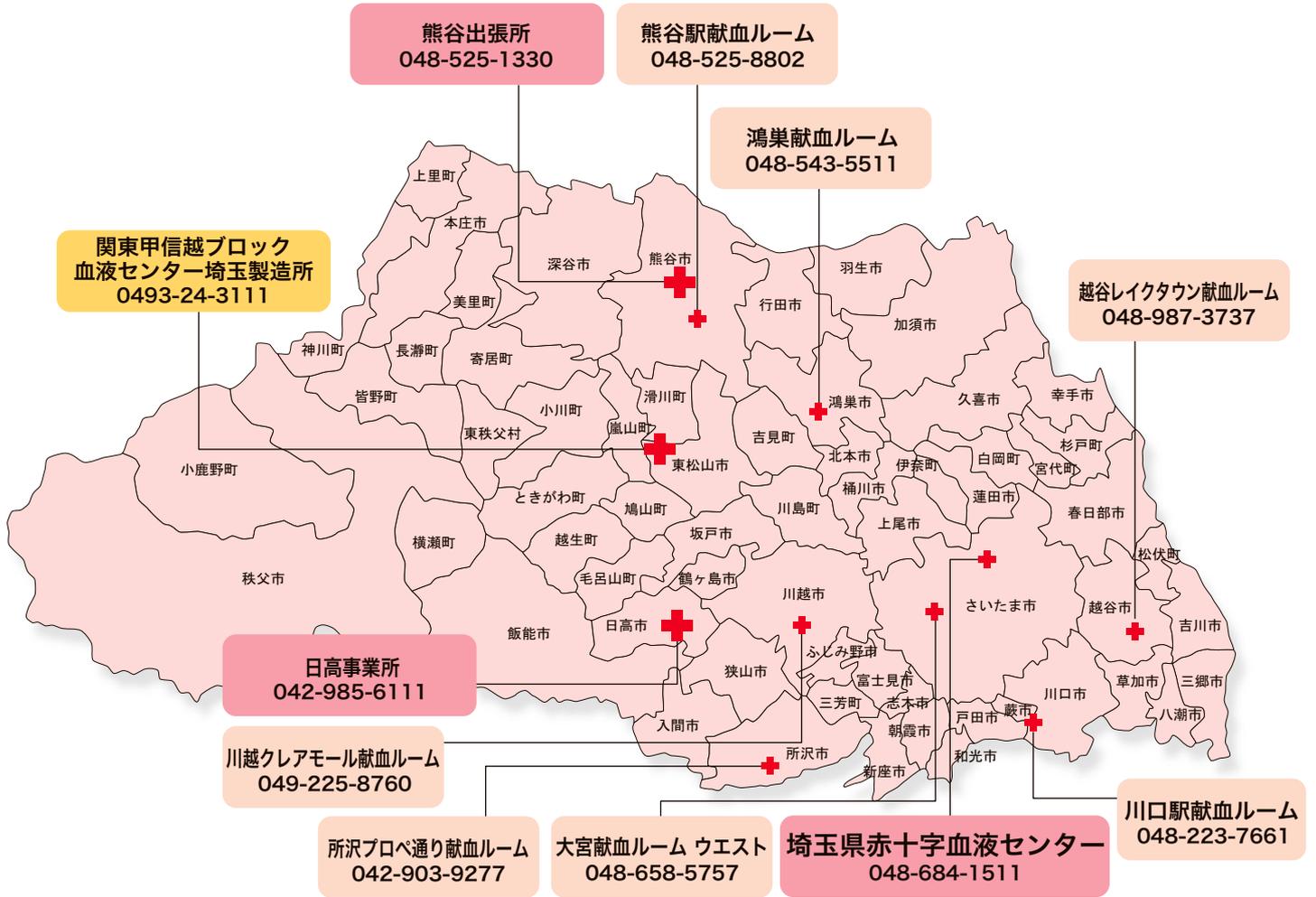
埼玉輸血セミナー

●情報システムネットワーク

各地の血液センターでは、全国統一のコンピュータシステムを導入し、献血された血液を受け入れてから医療機関に供給するまでの業務をコンピュータ管理しています。また、全国的に整備されたオンラインネットワークを利用し、献血データの一元管理等を行って血液製剤の安全性の確保に役立っています。



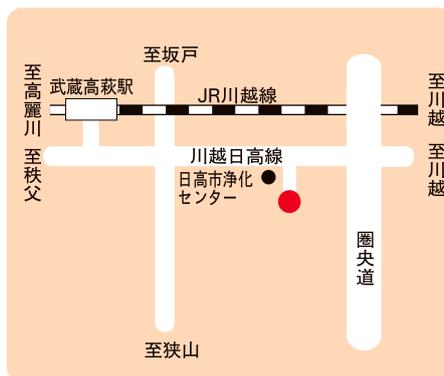
施設の案内



埼玉県赤十字血液センター



日高事業所



熊谷出張所



血液センター



埼玉センター全景

埼玉県赤十字血液センター

- 1 開設年月日 平成27年4月1日
- 2 所在地 337-0003
埼玉県さいたま市見沼区深作955-1
- 3 案内 JR宇都宮線東大宮駅からおよそ2km
048-684-1511
- 4 敷地面積 8,921.75㎡
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- 6 延床面積 2,794.66㎡

日高事業所

- 1 開設年月日 平成5年10月1日
- 2 所在地 350-1213
埼玉県日高市高萩1370-12
- 3 案内 JR川越線武蔵高萩駅からおよそ2km
042-985-6111
- 4 敷地面積 9,830㎡
(埼玉県及び日高市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建 (本館)
鉄筋造 地上2階建 (新館)
- 6 延床面積 2,885.0㎡ (本館)
313.7㎡ (新館)



日高事業所全景



熊谷出張所全景

熊谷出張所

- 1 開設年月日 昭和58年7月1日
- 2 所在地 360-0806
埼玉県熊谷市奈良新田398-1
- 3 案内 JR高崎線熊谷駅北口からおよそ6km
048-525-1330
- 4 敷地面積 6,289㎡ (熊谷市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造
地上2階、地下1階建
- 6 延床面積 2,613.7㎡

献血ルームの案内

大宮献血ルーム ウェスト

1 所在地

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-4-1
DOM PARTⅢビル 5F・6F

2 電話

048-658-5757

3 受付時間

全血献血 9:45~18:30

成分献血 9:45~17:00

4 休業日

年末年始
(臨時開設があります)



越谷レイクタウン献血ルーム

1 所在地

〒343-0828 埼玉県越谷市レイクタウン3-1-1
イオンレイクタウンmori 1F

2 電話

048-987-3737

3 受付時間

全血献血 9:45~17:30

成分献血 9:45~16:30

4 休業日

年末年始(臨時開設があります)



川越クリアモール献血ルーム

1 所在地

〒350-1122 埼玉県川越市脇田町4-2
川越モディ4F

2 電話

049-225-8760

3 受付時間

全血献血 10:00~17:30

成分献血 10:00~12:30 / 14:00~16:30

4 休業日

年末年始(臨時開設があります)
モディ休館日



鴻巣献血ルーム

1 所在地

〒365-0028 埼玉県鴻巣市鴻巣405-4
埼玉県運転免許センター内

2 電話

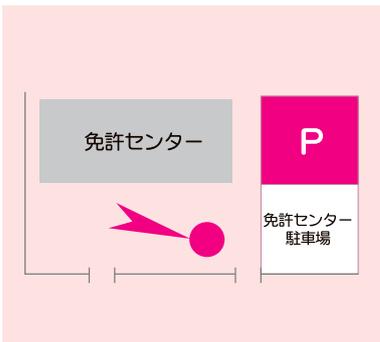
048-543-5511

3 受付時間

9:00~13:00 / 14:00~16:30

4 休業日

土曜・祝日及び年末年始
(運転免許センターの休業日)



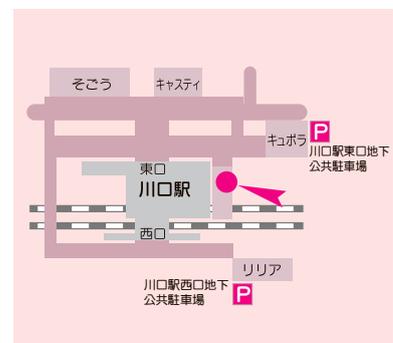
所沢プロペ通り献血ルーム

- 1 所在地
〒359-1123 埼玉県所沢市日吉町10-19
Tokorozawa ex2F
- 2 電話
042-903-9277
- 3 受付時間
全血献血 9:45~13:00/14:00~17:30
成分献血 9:45~12:30/14:00~16:30
- 4 休業日 毎週火曜日
※火曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



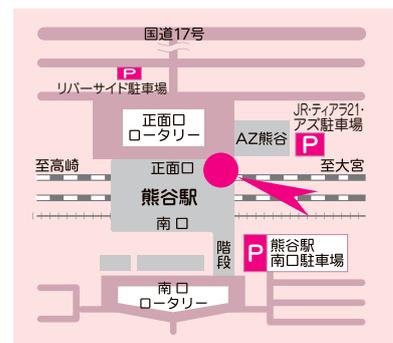
川口駅献血ルーム

- 1 所在地
〒332-0017 埼玉県川口市栄町3-1-24
川口駅東口ビル3F
- 2 電話
048-223-7661
- 3 受付時間
全血献血 9:45~13:00/14:00~17:30
成分献血 9:45~12:30/14:00~16:30
- 4 休業日 年末年始
(臨時開設があります)



熊谷駅献血ルーム

- 1 所在地
〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波2-112
JR熊谷駅構内
- 2 電話
048-525-8802
- 3 受付時間
全血献血 9:45~13:00/14:00~17:30
成分献血 9:45~12:30/14:00~16:30
- 4 休業日 毎週月曜日
※月曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



広報・キャンペーン活動

1 世界献血者デー

開催日 平成28年6月14日（火）
 会場 大宮駅西口コンコース・大宮献血ルームウエスト
 内容 ウエスト来場者に、献血に関する思いを漢字「一文字」で自由に書いていただき、ウエストに掲示すると共にフェイスブックに掲載。募集期間 5月16日（月）～6月11日（土）
 6月14日には大宮駅西口に、ハートラちゃんの着ぐるみにより風船とPRカードを配布。



2 第11回いのちと献血俳句コンテスト

期間 平成28年6月13日（月）～10月14日（金）
 内容 若年層を中心に献血に関する俳句を募集
 後援 厚生労働省・文部科学省・埼玉県教育委員会・読売新聞社
 協力 株式会社ポケモン



世界献血デーイベント

3 彩の国さいたま 愛の血液助け合い運動

期間 平成28年7月1日（金）～8月31日（水）
 会場 移動採血車及び県内献血ルーム
 内容 「献血推進ポスターコンクール」最優秀賞ポスターの掲示
 イベント 7月29日（金）「彩の国さいたま第47回愛の血液助け合いの集い」（市民会館うらわ）を開催し、献血功労者への感謝状の贈呈及びコンクール優秀作品受賞者の表彰
 共催 埼玉県
 協力 埼玉県教育委員会・埼玉県警察本部・埼玉県市長会・埼玉県町村会
 社団法人埼玉県医師会・社団法人埼玉県歯科医師会・社団法人埼玉県薬剤師会・埼玉県薬事団体連合会・埼玉県学生献血推進連盟



第11回いのちと献血俳句コンテスト

4 クリスマス献血キャンペーン

期間 平成28年12月1日（木）～12月25日（日）
 会場 各移動採血車及び県内献血ルーム
 内容 マスメディア・ポスター・ポケットティッシュによるPR
 イベント ○12月23日（金）JR大宮駅西口コンコースイベントスペース・JR大宮駅西口ロータリータクシープール
 埼玉西武ライオンズ選手によるトーク・ビンゴ大会・献血バス訪問
 彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」ステージ・トーク（友寄蓮）、尚美学園大学ゴスペル、こけびよライブなど
 ○アリオ上尾・イオンモール羽生
 学生献血推進ボランティアによる献血呼びかけ及び献血協力者へ記念品配布
 共催 埼玉県・日本赤十字社埼玉県支部
 協力 埼玉西武ライオンズ・埼玉県青年赤十字奉仕団連絡協議会・埼玉県学生献血推進連盟・大宮西口ロータリークラブ・アリオ上尾・イオンモール羽生・JR大宮駅



彩の国さいたま
愛の血液助け合い運動



クリスマス献血キャンペーン

5 はたちの献血キャンペーン

期 間	平成29年1月1日（日）～2月28日（火）
会 場	各移動採血車及び県内献血ルーム
内 容	マスメディアやHP及びFacebookによるPR 献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した新成人 を対象に県が作製した記念品を配布
共 催	埼玉県



はたちの献血キャンペーン

6 親子ふれあい献血キャンペーン

日 時	平成29年3月25日（土）10：00～17：00 （イベントは11：00～16：20）
会 場	アリオ深谷
内 容	ゴルゴ松本・彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」のトークショー ピーターパンJr.ライブ ポールプール・輪投げ・ぬりえの各コーナー 「ふっかちゃん」「コバトン」「さいたまっち」「けんけつちゃん」 親子連れを対象に献血協力者へ記念品（タブレット型ライス）配布
共 催	埼玉県・日赤埼玉県支部
後 援	深谷市・社団法人深谷青年会議所・深谷市社会福祉協議会
協 賛	アリオ深谷・株式会社深谷上柴ショッピングセンター
協 力	埼玉県学生献血推進連盟・深谷大里看護専門学校赤十字奉仕団



親子ふれあい献血キャンペーン

7 卒業献血キャンペーン

期 間	平成29年2月1日（水）～4月30日（日）
会 場	県内献血ルーム
内 容	チラシによるPR 3月に卒業する県内の高等学校へチラシを配布し、 そのチラシを持参いただいた献血協力者へ記念品 （イヤホン）を進呈
共 催	埼玉県・埼玉県教育委員会



卒業献血キャンペーン

研修・見学

1 臨床研修医対象研修

目的：輸血を行う立場にある医師を対象とした血液事業に対する理解の向上

埼玉医科大学

12月12日(1名)・1月10日(1名)・1月23日(1名)

埼玉医科大学総合医療センター

8月15日(1名)・10月3日(1名)・11月1日(2名)・12月1日(3名)・1月18日(1名)

さいたま赤十字病院

7月4日(1名)・7月11日(2名)・7月19日(2名)・9月12日(1名)・9月20日(2名)

10月17日(2名)

深谷赤十字病院

11月21日(1名)・12月12日(1名)

埼玉医科大学国際医療センター

6月13日(1名)

参加人数合計：24名

2 学生献血推進ボランティア対象研修

(1) 埼玉県学生献血推進連盟“赤い絆” 新規加入者宿泊研修

目的：学生献血推進連盟新規加盟者を対象とした献血についての基礎知識取得、献血知識の理解度均等化及び活動意欲向上

8月29日(月)・8月30日(火) 関東甲信ブロック血液センター埼玉製造所

参加人数合計：64名

(2) 学生献血推進リーダーの集い

目的：各地域センターでの若年層献血者確保に対する取り組みやキャンペーンの報告及び情報の共有

8月18日(木)・8月19日(金)

埼玉センターからの参加人数：3名



学生連盟新規加入者宿泊研修①



学生連盟新規加入者宿泊研修②



学生献血推進リーダーの集い①



学生献血推進リーダーの集い②

3 学生を対象とした講座

目的：将来の献血を担う若年層を対象とした献血の重要性の伝達

- 5月20日(金) 関東福祉専門学校 (生徒50名・教員3名)
- 7月12日(火) 熊谷農業高等学校 (生徒850名・教員20名)
- 9月16日(金) 川越市立大東中学校 (生徒184名・教員5名)
- 11月16日(水) 狭山市立山王中学校 (生徒119名・教員3名)
- 12月 3日(土) 埼玉工業大学 (学生30名・教員1名)
- 12月15日(木) 狭山工業高校 (生徒594名・教員20名)
- 1月19日(木) 白岡市立篠津中学校 (生徒144名・教員9名)

参加人数合計：生徒・学生1,971名 教員61名



川越市立大東中学校



関東福祉専門学校



埼玉県立鴻巣高等学校

4 市民公開講座

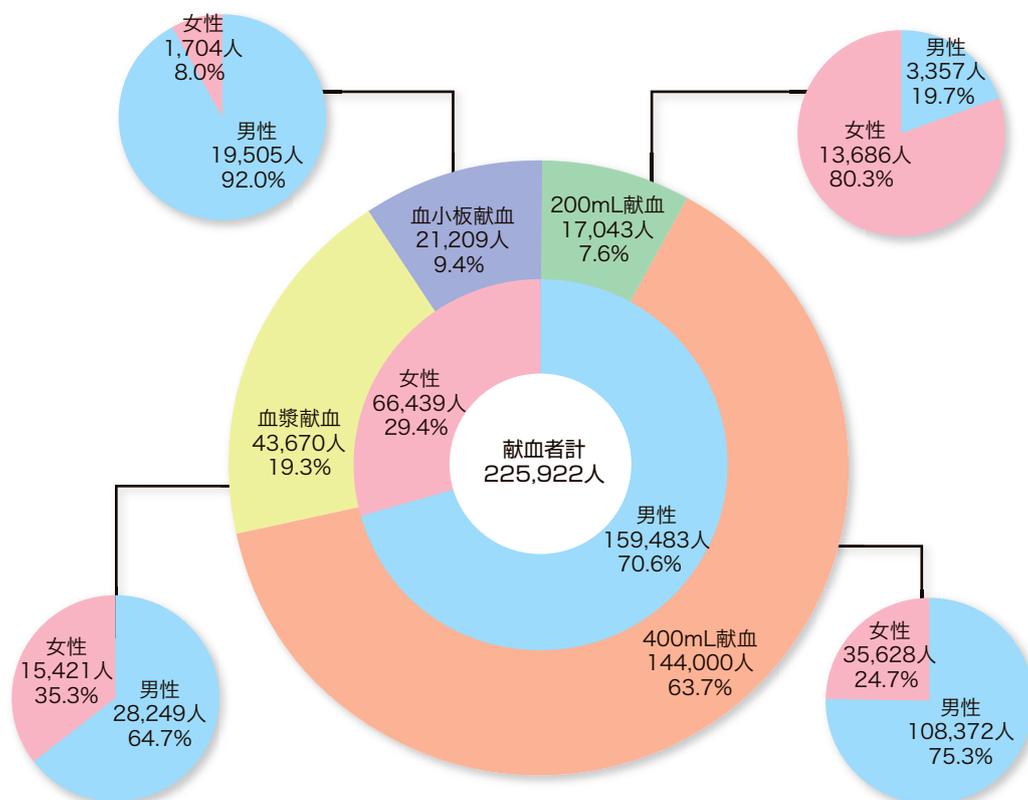
目的：献血協力団体を対象とした献血の現状報告や健康や献血に関する知識の共有

- 5月3日(祝) 天理教埼玉教務支庁 (30名)
- 11月3日(祝) 天理教埼玉教務支庁 (30名)

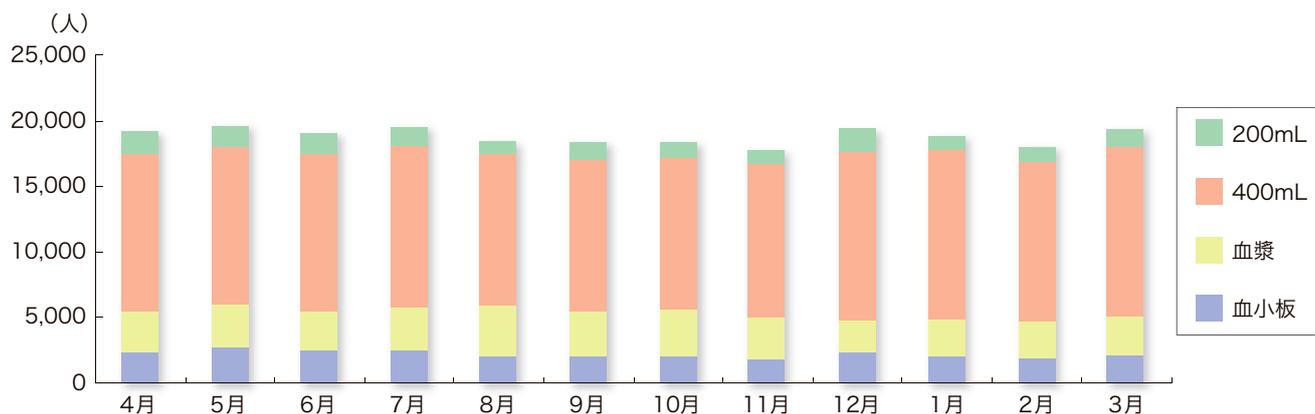
参加人数合計：60名

統計資料

1 献血種類別献血者数



月別献血者数



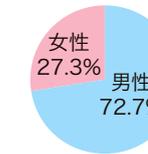
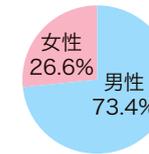
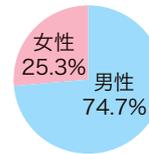
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	225,922	19,444	19,893	19,357	19,468	18,333	18,350	18,474	17,660	19,232	18,681	18,047	18,983
200mL	17,043	1,881	1,955	1,837	1,419	805	1,173	1,316	1,271	1,720	1,106	1,298	1,262
400mL	144,000	12,157	12,092	12,047	12,171	11,794	11,653	11,531	11,195	12,466	12,421	11,915	12,558
血漿	43,670	3,644	4,071	3,656	4,011	3,912	3,854	3,933	3,545	3,165	3,378	3,142	3,359
血小板	21,209	1,762	1,775	1,817	1,867	1,822	1,670	1,694	1,649	1,881	1,776	1,692	1,804

2 年代別献血者数

16~19歳 15,330人 6.8%	20~29歳 33,735人 14.9%	30~39歳 39,615人 17.5%	40~49歳 68,318人 30.3%	50~59歳 49,077人 21.7%	60~69歳 19,847人 8.8%
---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------

(人)

男性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		
	8,664	200mL	2,379	200mL	203	200mL	125	200mL	243	200mL	217	200mL	190
	5,892	400mL	16,269	400mL	20,166	400mL	33,950	400mL	23,115	400mL	8,980	400mL	8,980
	236	血漿	2,424	血漿	4,682	血漿	9,315	血漿	7,628	血漿	3,964	血漿	3,964
	157	血小板	1,698	血小板	3,755	血小板	7,535	血小板	5,057	血小板	1,303	血小板	1,303



(人)

女性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		
	合計		合計		合計		合計		合計		合計		
	6,666	200mL	4,379	200mL	2,297	200mL	1,555	200mL	2,386	200mL	2,010	200mL	1,059
	1,855	400mL	7,397	400mL	5,933	400mL	9,965	400mL	7,371	400mL	3,107	400mL	3,107
	403	血漿	3,093	血漿	2,983	血漿	4,271	血漿	3,427	血漿	1,244	血漿	1,244
	29	血小板	354	血小板	416	血小板	653	血小板	252	血小板	0	血小板	0

3 職業別献血者数

公務員 26,618人 11.8%	会社員 126,690人 56.1%	学生 21,571人 9.5%	その他 51,043人 22.6%
-------------------------	--------------------------	-----------------------	-------------------------

(人)

男性	公務員		会社員		学生		その他		
	合計		合計		合計		合計		
	22,997	200mL	102,906	200mL	11,960	200mL	21,620	200mL	278
	149	400mL	598	400mL	2,332	400mL	8,634	400mL	13,362
	17,096	血漿	19,222	血漿	595	血漿	4,815	血漿	4,815
	3,617	血小板	13,806	血小板	399	血小板	3,165	血小板	3,165

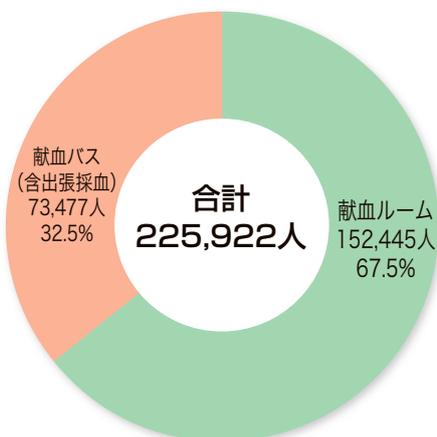
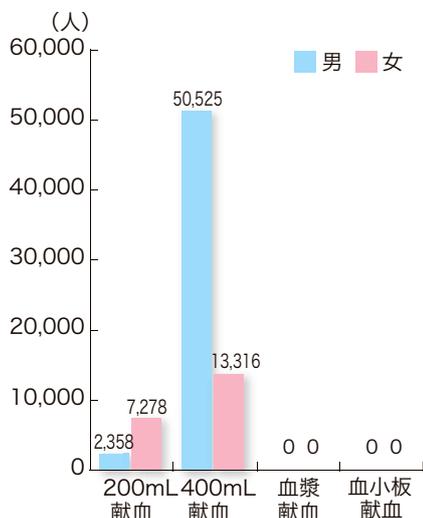


(人)

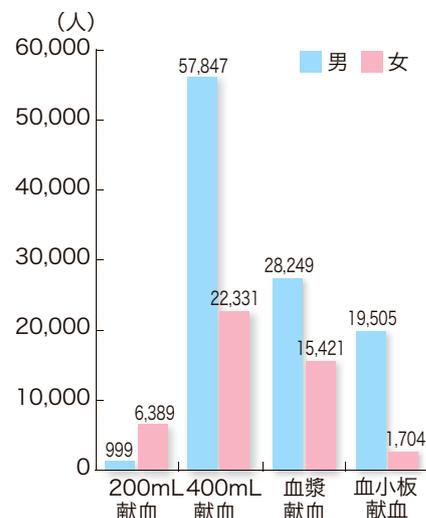
女性	公務員		会社員		学生		その他		
	合計		合計		合計		合計		
	3,621	200mL	23,784	200mL	9,611	200mL	29,423	200mL	4,485
	621	400mL	3,769	400mL	4,811	400mL	16,213	400mL	16,213
	2,123	血漿	5,632	血漿	1,117	血漿	7,884	血漿	7,884
	788	血小板	689	血小板	85	血小板	841	血小板	841

4 受入施設別献血者数

移動採血

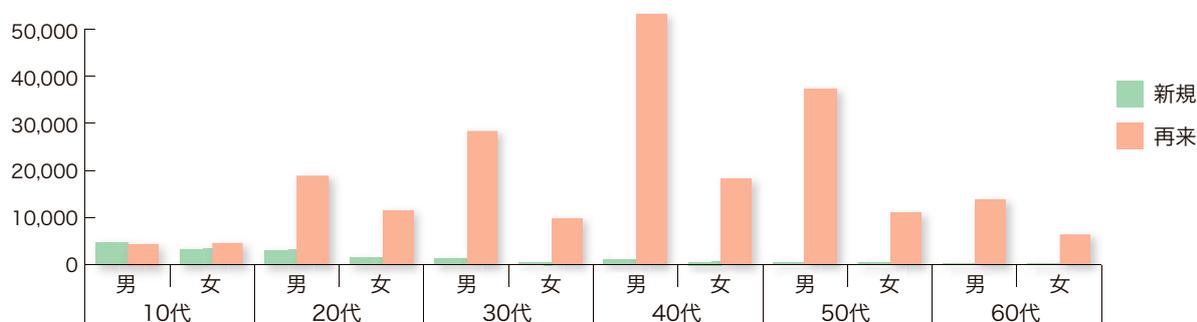


献血ルーム



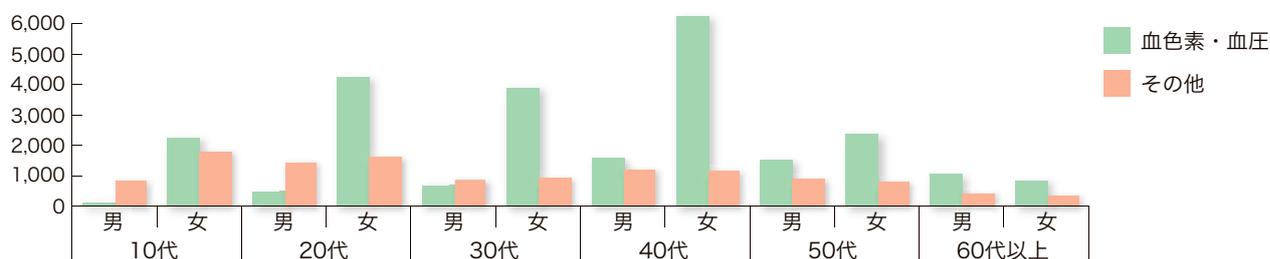
5 年代別新規再来献血者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	225,922	8,664	6,666	20,594	13,141	28,728	10,887	51,043	17,275	36,017	13,060	14,437	5,410	159,483	66,439
新規	17,605	4,582	2,981	3,187	1,350	1,383	565	1,396	766	621	525	143	106	11,312	6,293
再来	208,317	4,082	3,685	17,407	11,791	27,345	10,322	49,647	16,509	35,396	12,535	14,294	5,304	148,171	60,146



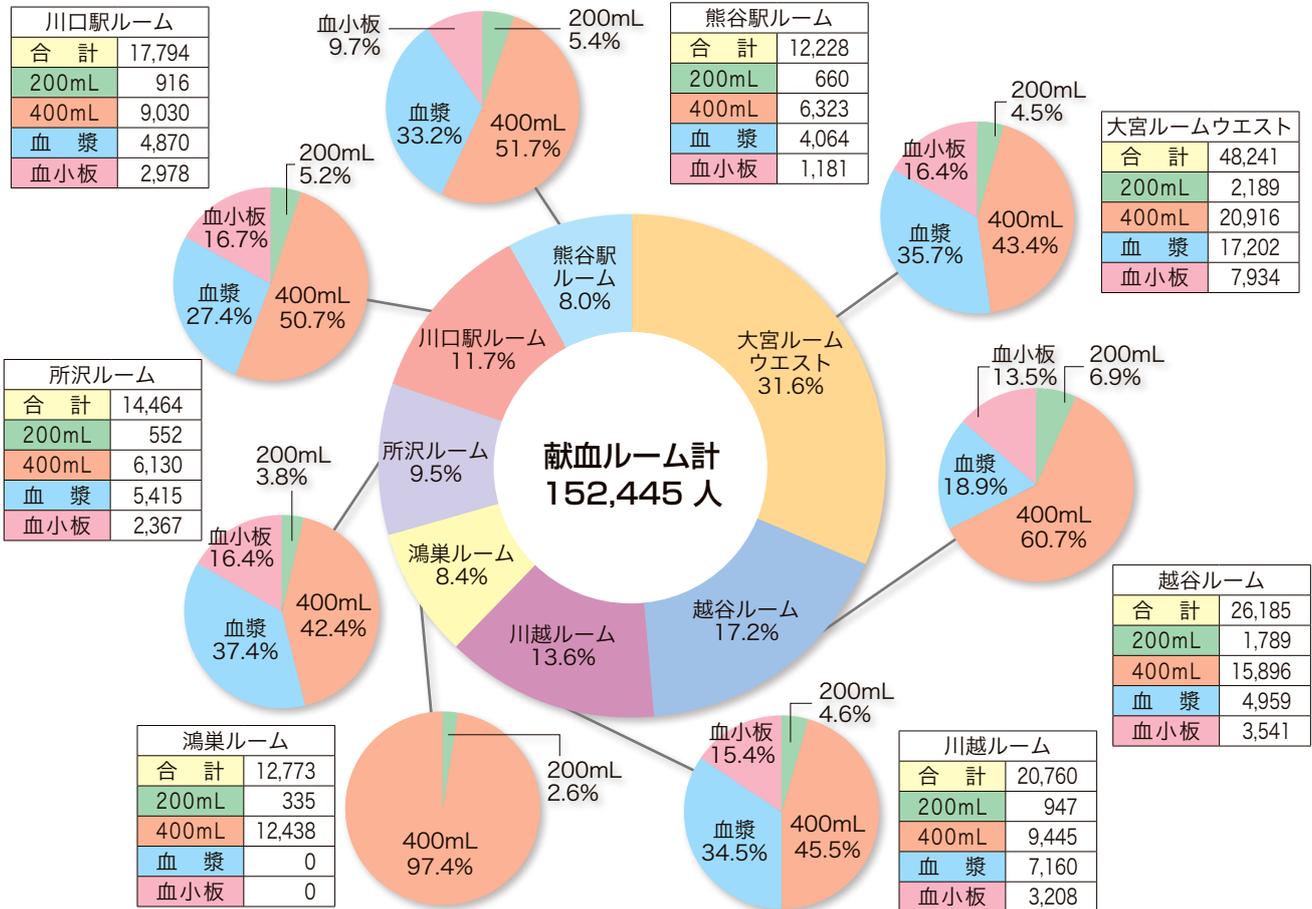
6 献血不適格者数

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	37,092	1,031	4,132	1,556	5,931	1,520	4,852	2,667	7,672	2,409	2,960	1,313	1,049	10,496	26,596
血色素・血圧	25,488	140	2,253	351	4,336	647	3,998	1,552	6,631	1,587	2,312	914	767	5,191	20,297
その他	11,604	891	1,879	1,205	1,595	873	854	1,115	1,041	822	648	399	282	5,305	6,299



7 献血ルームの受入状況

①献血ルーム別献血者数



②職業別献血者数

(人)

	合計	公務員		会社員		高校生		学生		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	152,445	11,278	2,015	73,050	16,081	1,705	2,249	3,909	3,967	16,658	21,533
ウエスト	48,241	3,786	760	22,588	5,441	591	869	1,448	1,578	4,751	6,429
越谷	26,185	1,721	335	12,615	2,743	292	442	446	560	2,467	4,564
川越	20,760	1,602	224	9,552	2,140	252	287	658	701	2,476	2,868
鴻巣	12,773	745	90	6,802	1,030	107	49	472	170	1,768	1,540
所沢	14,464	1,536	217	6,308	1,518	185	231	359	429	1,720	1,961
川口駅	17,794	897	247	9,087	2,104	118	155	279	299	1,941	2,667
熊谷駅	12,228	991	142	6,098	1,105	160	216	247	230	1,535	1,504

③新規再来別献血者数

(人)

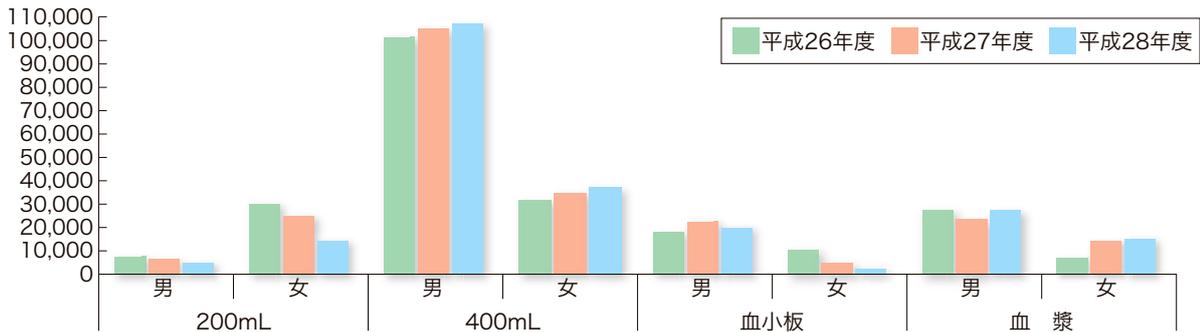
	合計	初回		再来	
		男	女	男	女
合計	152,445	3,730	2,866	102,870	42,979
ウエスト	48,241	764	800	32,400	14,277
越谷	26,185	627	608	16,914	8,036
川越	20,760	355	295	14,185	5,925
鴻巣	12,773	1,201	415	8,693	2,464
所沢	14,464	232	258	9,876	4,098
川口駅	17,794	316	282	12,006	5,190
熊谷駅	12,228	235	208	8,796	2,989

8 献血者の推移

① 献血種類別の推移

(人)

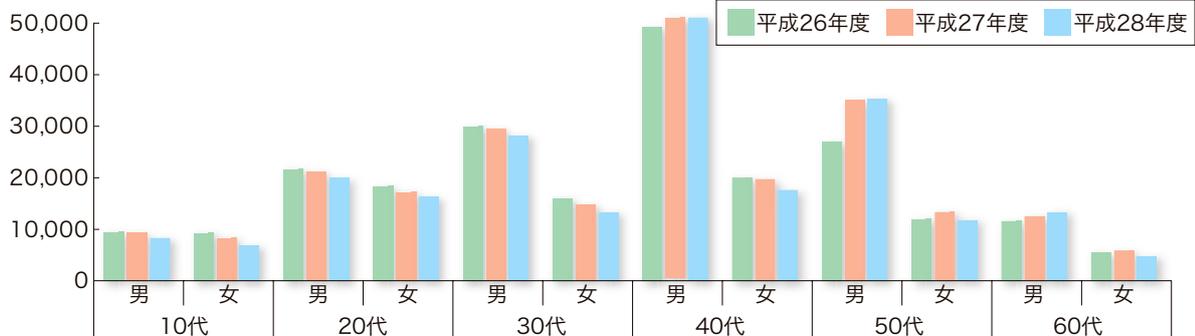
	合計	200mL		400mL		血小板		血漿		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成26年度	233,003	7,116	30,783	101,533	32,134	17,031	10,301	27,848	6,257	153,528	79,475
平成27年度	235,485	5,639	24,597	107,112	33,660	21,001	3,397	25,424	14,655	159,176	76,309
平成28年度	225,922	3,357	13,686	108,372	35,628	19,505	1,704	28,249	15,421	159,483	66,439



② 年齢別の推移

(人)

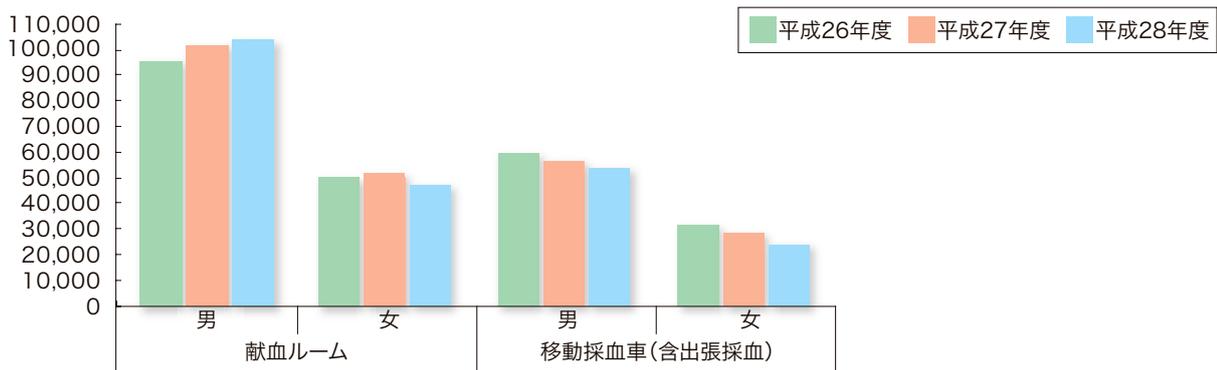
	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成26年度	233,003	9,327	9,256	22,021	17,500	30,505	14,471	48,343	19,684	31,160	13,036	12,172	5,528	153,528	79,475
平成27年度	235,485	9,141	8,131	21,495	15,755	29,700	13,280	50,214	19,436	34,848	13,870	13,778	5,837	159,176	76,309
平成28年度	225,922	8,664	6,666	20,594	13,141	28,728	10,887	51,043	17,275	36,017	13,060	14,437	5,410	159,483	66,439



③ 受入施設別推移

(人)

	合計	献血ルーム		移動採血車 (含出張採血)		計	
		男	女	男	女	男	女
平成26年度	233,003	95,777	49,519	57,751	29,956	153,528	79,475
平成27年度	235,485	103,324	50,117	55,852	26,192	159,176	76,309
平成28年度	225,922	106,600	45,845	52,883	20,594	159,483	66,439

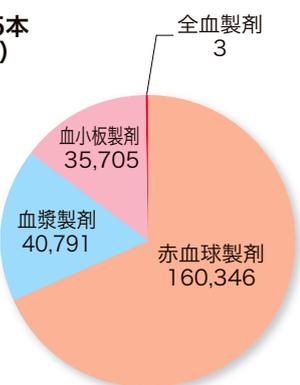


9 供給の状況

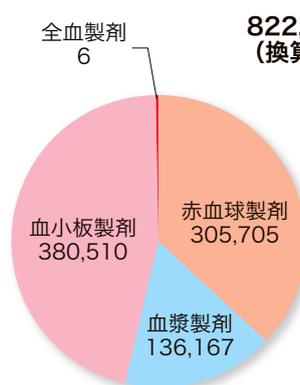
①血液製剤種類別供給数

	1単位製剤	2単位製剤	成分				本数合計	単位換算
			5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	3	—	—	—	—	3	6
赤血球製剤	14,987	145,359	—	—	—	—	160,346	305,705
血漿製剤	1,448	31,360	7,983	—	—	—	40,791	136,167
血小板製剤	0	0	684	30,900	2,866	1,255	35,705	380,510
合計	16,435	176,722	8,667	30,900	2,866	1,255	236,845	822,388

236,845本
(実本数)



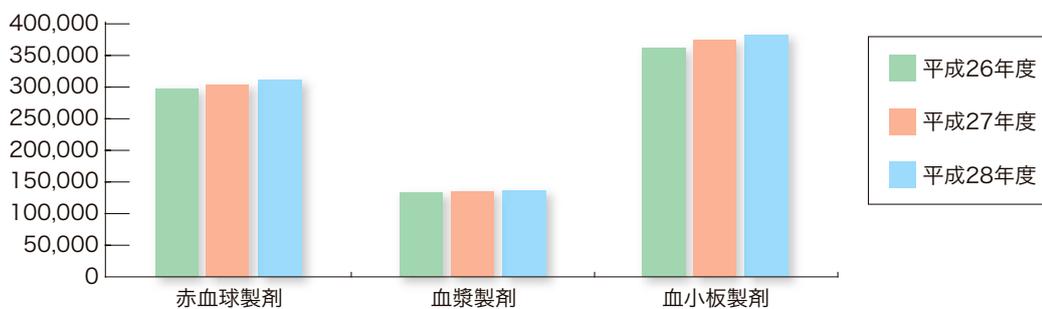
822,388本
(換算本数)



②輸血用血液製剤の推移

(200mL換算本数)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成26年	795,251.5	4	298,845	135,719.5	360,683
平成27年	814,493.0	4	302,977	135,010.0	376,502
平成28年	822,388.0	6	305,705	136,167.0	380,510

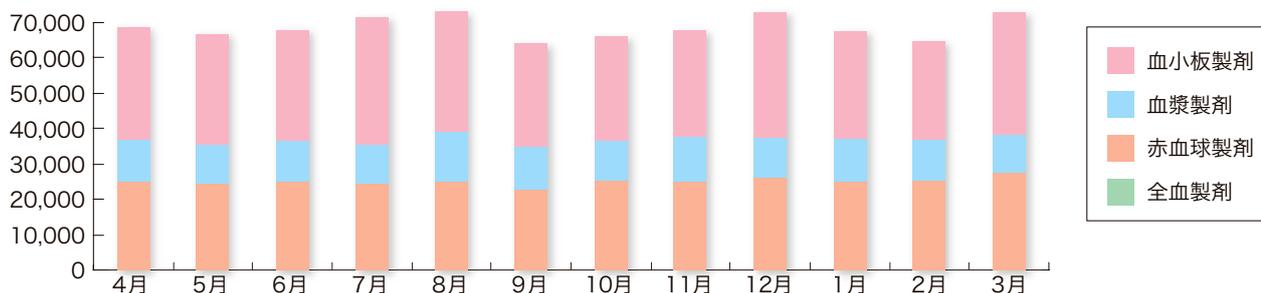


※全血製剤は、値が小さいため省略した。

③月別供給数

(200mL換算本数)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	305,705	25,555	25,303	25,772	25,425	25,667	24,066	25,238	25,417	26,804	25,968	24,265	26,225
血漿製剤	136,170.0	11,930.0	10,938.0	11,353.0	12,531.0	13,307.0	9,847.0	10,435.0	11,008.0	11,683.0	10,115.0	11,131.0	11,892.0
血小板製剤	380,510	31,420	31,275	31,390	33,185	33,875	30,295	30,575	30,370	33,485	30,965	30,010	33,665





日本赤十字社

埼玉県赤十字血液センター

http://www.saitama.bc.jrc.or.jp/
携帯用サイト <http://www.saitama.bc.jrc.or.jp/mobile/>

